

飲水思源

町長 松岡市郎

旅と言葉の壁

よく「〇〇」は付きもの、という表現がある。旅にもハプニングが付きものである。先日、中国銀川市からの招待で「アジア都市景観賞」の受賞のため中国を訪問した時のことである。

空港に入る時に一人ひとり厳重に審査が行われる。入国する時には厳しいチェックが行われる、いつも感じることがある。それは空港の入国ゲートでも同じである。特に日本人に対して特別な感情があるかのような態度が示される場合もあった。

最初の入国審査時に、持参した傘をバッグの中に入れていて中身をチェックされたので、二度目はそのような面倒なことにならないように、とバッグから出していった。予想していたとはいもの「カサ、カサ」と言われたので実に驚いた。

またこんなこともあった。上海から銀川へ向かう途中、何のためか分からないが、途中ある空港に着陸をした。目的地の空港に到着したものと思って棚から荷物を取り、ドアが開くのを

待っていたが、他の乗客は一向に立ち上がらない。われわれは前方から3列目に席を取っていたが、荷物を取ったのは前列に座っていた2人くらいで、他の乗客は落ち着いて座っている。

「おかしいな？」と思いながら、「地方の中国人はさすが寛大で、実にゆっくりと行動するね」と同行の町職員と話して待っていた。ドアが開き、前方の2人が出たので「さあ、行きましょうよ」と続いた。しばらく歩くと職員が「町長、呼んでいますよ」というので引き返した。何かと戻ると「ここは降りる空港ではないようです」と他の同行者が言う。それならば、降りる時になぜ乗務員は確認しないのか？と不思議に思う。とはいえ、中国語と英語のアナウンスはあった、良く聞き取れていなかっただけの話である。40分間近く待って飛び立ったが、一体何のための一時着陸であったのか（帰路には一時着陸はなかった）。目的地の銀川の空港に着いた時、乗客が一斉に立ち上がり、われ先にと急ぎ出し慌ただしい。言葉が分からない不便さを改めて感じた。

蒸気機関車EX Vol.26(2016 Autumn) (一般書)



旧国鉄北海道(現JR北海道)の函館本線、宗谷本線、富良野線、そして実質的に石北本線のジャンクション駅である旭川駅は、昼夜問わず列車が発着し、駅至近の宮前にあった機関区にはC55、D51、9600型の蒸気機関車とその巨大な扇形庫に顔を揃えていた。蒸機乗務員回顧録「鉄の馬と兵ども」では、旭川機関区にスポットを当て、非電化時代の旧国鉄で函館本線を疾走したC62型、蒸気機関車時代の末期までファンに愛された宗谷本線C55型を中心に、華やかだった往時を振り返る。

家族はつらいよ (DVD)

松竹株式会社



結婚50年を迎えようとする平田家の主、周造と妻富子。たまには妻に誕生日のプレゼントでも買ってやろうか、と富子に欲しいものを聞いてみると、答えはなんと「離婚届」！ 突然起きた熟年離婚騒動に子供たちは大慌て。何とか解決策を見つけようと家族会議を執行し、離婚問題を話し合おうとするものの、それぞれの不満が噴出し始めた。(108分)

貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



ハリー・ポッターと呪いの子 (児童書)

J.K.ローリングほか：著 静山社：刊



イギリスの女性作家、J.K.ローリングの書き下ろした新ストーリーをもとに、特別リハーサル版の脚本に描かれた舞台を書籍版として出版した。「ハリー・ポッターと死の秘宝」での戦いから19年後。3人の子を持つ父親となったハリーは、魔法省の激務に押しつぶされそうな日々を過ごしていた。ホグワース魔法学校に入学したハリーの二男アルバスは、「ハリー一家の伝説」という望みもしない重圧と戦うことに…。